

6年生が残してくれたもの

桜のつぼみもふくらみ仮設校舎入り口のプランターに植えたチューリップもたくさん芽を出してきました。寒く厳しかった季節に別れを告げているようです。この様子を見ると、いよいよ今年度も終わりになったんだと感じてしまいます。

先日最後の「授業」ともいえる第56回卒業証書授与式が行われました。卒業生14名、担任の呼ぶ名前に大きな声で「はい」と応え、緊張しつつも誇らしげな顔で卒業証書を受け取り卒業していきました。子どもたちの前途洋々なることを願わずにはられません。子どもたちは、小学校6年間で約6000時間の授業を受けます。その最後の1時間が卒業証書授与式であると思うのです。

子どもたちは、自分たちの卒業式を思い出に残る意義のあるものにしようと練習段階から動作・言葉・歌など主体的・積極的に取り組みました。担任は、卒業証書授与式という行事の取り組みを通して子どもたちがもう一回り大きくなるように支援していました。5年生は練習から間近で6年生の姿を目に焼き付け、次の6年生としての自覚を育て、松波小学校の伝統を受け継いでいきます。卒業証書授与式は、卒業を祝う儀式であると同時に、子どもたちにとっては大きな学びのある教育活動であると考えています。これが、「最後の授業」の意味です。そこには、小学校の卒業式にふさわしい、小学校の卒業式ならではの、空気感が存在します。奇をてらった演出や、必要以上に華美な服装、個々の目立つパフォーマンスは全く必要ないのです。

6年生の思いは伝統として1～5年生へと確実に受け継がれました。1～5年生は、この1年間努力してきたことをステップに新しい学年へ進級し、6年生から受け継いだ松波小学校の伝統を繋げていってほしいと思います。

保護者・地域の皆様の多大なるご理解・ご協力により、1年間、教育活動を進めることができました。ありがとうございます。修了式、卒業式を一つの区切りとして、また一歩先へ進みます。新年度も、全力で取り組んでまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。